

【公報種別】特許法第 17 条の 2 の規定による補正の掲載

【部門区分】第 3 部門第 2 区分

【発行日】平成 17 年 2 月 17 日 (2005.2.17)

【公表番号】特表 2004-506661 (P2004-506661A)

【公表日】平成 16 年 3 月 4 日 (2004.3.4)

【年通号数】公開・登録公報 2004-009

【出願番号】特願 2002-520619 (P2002-520619)

【国際特許分類第 7 版】

A 0 1 N 37/18

A 0 1 K 13/00

C 0 7 C 233/58

【F I】

A 0 1 N 37/18 Z

A 0 1 K 13/00 Z

C 0 7 C 233/58

【手続補正書】

【提出日】平成 15 年 2 月 24 日 (2003.2.24)

【手続補正 1】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】特許請求の範囲

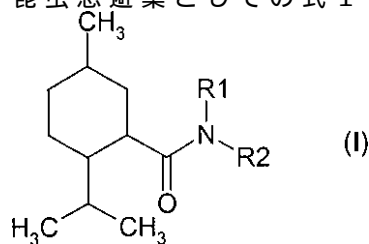
【補正方法】変更

【補正の内容】

【特許請求の範囲】

【請求項 1】

昆虫忌避薬としての式 I で表わされる化合物の使用：



式中、

$R^1$  及び  $R^2$  は独立して、H、炭素原子 1 ~ 20 個を有する直鎖状若しくは分枝鎖状の飽和若しくは不飽和脂肪族若しくはヘテロ脂肪族残基、又は環系に対する若しくは環系上の任意の置換基の炭素原子を計算に入れずに、炭素原子 4 ~ 8 個を有する環状残基を表わし、

そして  $R^1$  が H である場合、 $R^2$  はまた、10 個までの炭素原子を有する置換若しくは非置換のアリール若しくはヘテロアリール残基であることができ、あるいは

$R^1$  及び  $R^2$  は、これらが結合している窒素原子と一緒に、環系に対する若しくは環系上の任意の置換基を計算に入れずに、炭素原子 4 ~ 8 個を有する環状若しくはヘテロ環状の飽和若しくは不飽和環系を形成していてもよい。

【請求項 2】

該化合物において、

$R^1$  は H、メチル、エチル、プロピル又はフェニル残基を表わし、及び

$R^2$  は H、メチル、エチル、プロピル又はフェニル残基を表わす、請求項 1 に記載の化合物の使用。

【請求項 3】

溶剤、芳香成分、殺虫剤及び昆虫忌避薬から選択される化合物を含有する組成物中の昆虫忌避薬又はクモガタ綱動物忌避薬としての式 I で表わされる化合物の使用。

【請求項 4】

家庭用品、工業的クレンジング製品、ペット及び家畜動物保護用製品、布地、プラスチック材料、及び被覆材料から選択される製品における請求項 3 に記載の組成物の使用。

【請求項 5】

昆虫忌避薬及び / 又はクモガタ綱動物忌避薬としての上記製品を使用するための指示書とともに、昆虫忌避薬又はクモガタ綱動物忌避薬として式 I で表わされる化合物を含有する製品を含むパッケージ。